

製品名: FUBP1 ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe86879

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.15mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:500-1:2000,ICC/IF 1:500-1:1000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:68 kDa; Observed MW:74 kDa

抗原情報

遺伝子名	FUBP1
別名	FBP; FUBP; hDH V
遺伝子 ID	8880
SwissProt ID	Q96AE4
免疫原	ヒト FUBP1 の合成ペプチド

背景

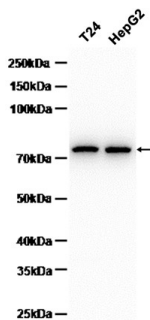
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、c-mycの上流に位置する最上流エレメント（FUSE）を含む複数のDNAエレメント

に結合する一本鎖 DNA 結合タンパク質である。FUSE への結合は非コード鎖上で起こり、未分化細胞における c-myc の制御に重要である。このタンパク質は、両親媒性ヘリックス N 末端ドメイン、DNA 結合中心ドメイン、および 3 つのチロシンリッチモチーフを含む C 末端トランス活性化ドメインの 3 つのドメインを含む。N 末端ドメインは、C 末端ドメインの活性を抑制すると考えられている。このタンパク質は RNA にも結合すると考えられており、3'-5'ヘリカーゼ活性を有し、in vitro 活性は DNA-DNA および RNA-RNA 二重鎖の両方に対して認められる。この遺伝子の異常発現は悪性組織で発見されており、この遺伝子は神経系および肺の発達に重要である。このタンパク質がウイルス RNA に結合することは、C 型肝炎や手足口病など、いくつかのウイルス性疾患に関与していると考えられています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2014 年 12 月]

研究分野

-

画像データ



FUBP1 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した、T24、HepG2 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。